

# 整備事例集 vol.19

令和6年度整備事例集



掲載事例①

私たちのまちを  
私たちでつくる  
きっとまちが好きになる



掲載事例②

## 掲載事例

- ①HOMMOKU もくりプロジェクト(中区)
- ②リアルとバーチャルで夢を応援えだきんメタワールド(都筑区)

ふ-しん【普請】「普く請う(あまねくこう)」とも読み、「力を合わせて作業に従事すること」という意味が含まれています。

「公共」は行政によってのみ担われるものではなく、特に地域に根ざした身近な課題への対応などに市民の皆さんが主体的に関わることで、参加する人や地域に暮らす人々の満足感を高めることにつながっていきます。「まち普請」には、市民に身近な「まち」に「普請」の輪を広げていきたいという願いが込められています。

# 地域のゆるーい関係づくりの拠点

## 「リトルファーム HOMMOKU もくり」

本牧通りから歩いて15分、住宅街の中の細い小道を入ると、ぱっと視界が開けます。古い民家と広い庭には折々の花が咲き、夏ミカンの木などの実のなる木と菜園があり、季節ごとの野菜が収穫できます。そして築80年を超えた古民家でくつろぐこともできる。住宅地の中のアスレチックな場所、それが「リトルファーム HOMMOKU もくり」(以下、「もくり」)だ。

成30年にオープンしました。「コンビニや公園もなく、休憩するところもない地域に、みんなが集える場所がほしいと考えたのです。そこで古民家と庭を利用したソーラーキッチン教室、ヨガ教室など、多様な活動を始めました。

しかし、活動を始めてみると、いろいろな課題が明らかになります。目印がなく、奥まった場所にあり、大変わかりにくい。地元の人たちでさえ、最初は「もくり」にたどり着けなかったそうです。

また、80年を超えた古民家は下水道が経年劣化していて、雨が降るとすぐ水が溜まり、利用者が増えるトイレも詰まってしまう。これでは、晴れていても大勢の人が利用できません。さらに台所も昭和時代のままで、非常に使いづらい。料理教室や子ども食堂もできません。

本牧は高齢化が進んでいるものの、建て替えて若い世代も増えています。また、外国籍の人たちも徐々に住み始めました。多様な人たちが地域に溶け込めるきっかけをつくりたい、と思っていたのに、大きな壁にぶつ

かっていました。

そんな時に、仲間の一人が「まち普請という助成金があるらしいよ」と教えてくれました。ハード整備に対する助成金！ここにぴったりじゃないの、と申請を決めました。その情報に気づいたのはほぼ締め切り間際、メンバーは必死になって書類を作成しました。「もくり」の強みは、地域の多様なネットワークがあることで、大工仕事や農作業が得意な人だけでなく、絵が描ける人、設計士、企画書を書ける人がいるので、何かあると色々な技を持った人たちが集まってきます。だから、この時も短い時間でしたが、みんなで集中、「やらなきゃ前に進まないよー」という思いで一致団結、無事コンテストを通過しました。

まち普請の整備で、懸案だった「場所のわかりにくさ」は解決しました。町内会の掲示板、個人のお宅などあちこちに「もくりはこちらです」という案内があります。それだけでも「もくり」が地域の居場所になっていることがわかります。「もくり」の入り口には、目印看板もつきました。

そして、道路から「もくり」までの小道には「アイコンづくりワークショップ」で地域の子どもたちが作成した農作物や昆虫などの絵が並び、入りやすい雰囲気を作り出しています。加えて「今月の予定」を知らせるイベント告知版。これは以前の窓枠を再利用して作成しました。これによって今、どんなことが行われているのか、一目でわかるようになっていきます。



指導を受けながら、キッチンのタイル貼り



子どもたちが作成した入り口のアイコン

下水道はプロの手でしっかり整備され、雨の日に人が集まっても不安はなくなりました。キッチンにはシンクを高くして、作業が楽になりました。そのほかに、窓をアルミサッシにして寒さ対策をしたり、換気扇を設置したりして、使いやすくなりました。あえてシステムキッチンではなく、みんなでタイルを貼って、昭和の雰囲気が残るキッチンになりました。ようやく待望の「みんなの食堂」も活動グループが誕生し、始めることができるようになりました。

キッチンの外にカウンターも設置し、収穫した野菜や調理した料理をキッチンから直接外にいる人たちに渡せるようになり、中と外の連携がスムーズになりました。

新しくなった「もくろ」では、古民家の風情を活かした茶道の講座等、これまでの活動も続いています。自主事業としては「畑部」で野菜や果物を育て、「食部」で収穫されたもので、折々の食事をつくる。畳の部屋で字を書く「書道部」、いろいろ持ち寄って好きなものをつくる「芸芸部」があります。そこに醤油をつくる「発酵部」、持ち寄った図書を借りられる「図書部」が増えました。また、「おやつタイム」のような気軽に参加できる活動も自然に生まれてきました。子どもたちが家で余ったお菓子を持



おやつタイム 読み聞かせグループと一緒に

ち寄って、みんなでおやつを食べる。そんな時間があってもいいよね」という一人の思いからはじまり、子どもたちが運営に関わり、町内会との「コラボ事業」に発展しています。

もともとネットワークを持っている人たちの集まりだったので、「〇〇やりたかね」と、活動が増えていきます。それらはゆるーくつながっていて、地域の知り合い同士だから、コラボになることもあります。新しい試みを見た人が「私たちもできるかも」と始める人もいます。



和室を活かした、着付けとお茶の会

新しい「もくろ」の成果は、担い手が増えたことです。スタッフ会議に若い世代が入り、「パンフレットを作り直しましょうよ」「インスタやりましょうよ」と積極的に関わってくれているようになったそうです。そこから役員も増え、世代交代がスムーズにできそうというのは、大きな成果です。

2025(令和7)年の秋は、「もくろ」の活動が始まってから7周年でした。そのお祝いも、大イベントとして大勢が集まるのではなく、それぞれの部がちよっと特別なことを、1か月かけてやる、やっぱり「ゆるーい」お祝いでした。「もくろ」を拠点に小グループが沢山できて、毎日どこかのグループが定期的な「もくろ」を利用して、そこで出会ったグループ同士がつながって広がっていき、という理想を実現するようなお祝いでした。

エアコンがないから、夏に熱中症警戒アラートが出たら閉園、冬も2月は寒いから閉園、と運営もゆるいのですが、世代交代できそう、そして維持費も大家さんたちの協力でもあまり問題なしという、持続可能性の面で非常に明るい「もくろ」は、これからも地域でゆるーく根を張っていきそうです。

**Access Map**

**HOMMOKU もくろプロジェクト (中区)**

整備主体… HOMMOKU もくろ  
プロジェクト実行委員会

整備場所… 中区本牧満坂169

整備内容… 園内案内板やイベント告知板等設置、スロップ設置、台所水回り改修、井戸設置等

竣工時期… 令和7年1月

# みんなの思いが詰まったテラスとステージ

## えだきん×夢叶きやらばん

ゆめかな



テラスでは、かき氷の早食い競争など様々なイベントが行われてきた

商店街の中心にあるパン屋「パリジェンヌ」前には、約20年前に地域交流の場としてテラスが設置され、子どもから高齢者まで多世代が集う場となっていました。

今回のプロジェクトの代表上野さんは、20年前にえだきん商店街と出会ってから長年お祭りやイベントを手伝い、「誰もが安心して暮らせる地域づくり」をモットーに、エンタメ制作や高齢者のデジタル支援など、幅広く活動してきました。

2022（令和4）年には、「引きこもりがちな中高生や高齢者が、外とのつながりを持てるきっかけとして、バーチャルとリアルをつなぐ場を作りたい」と考え、まち普請に挑戦するも、「バーチャルな場」への理解を得ることが難しく、一次コンテストで敗退してしまいました。

しかし、翌年、「青空テラス」や「ステージ」など、リアルな場を整備する方向へと転換し、まち普請に再挑戦。コンテストでは、子どもたちが「自分たちにとって大切な場所だから、改修が必要」と熱い思いを訴え、見事通過することができました。



テラス解体後、みんなで清掃

今にも床が抜けそうだったり、テーブルは反り返り、椅子が壊れていたりとかなり老朽化していたテラスは、地域の人たちが協力して解体。そこで出た木材は、テラスの机や椅子へと生まれ変わりました。

また、年季が入ったシャッターも、水でっぽうを使ったイベント仕立てで、子どもたちも参加して楽しくお掃

除し、とても綺麗になりました。最後はプロの手も借りて、パリジェンヌ前に、素敵なテラスとステージ「パリ横テラス」が完成しました。

2025（令和7）年1月には完成イベントを実施。ステージでは、子どもたちの歌やダンスが披露され、みんなで完成を祝いました。



テラスで行われているスマホ教室

テラスは、現在、高齢者のスマホ教室や屋台食堂など、多世代が集う場として活用されています。

上野さんは言います。「孤独・孤食・孤立をなくしたいと、定期的に、屋台食堂を開催しています。小中学生やシ

「えだきん商店街」は青葉区、緑区に隣接する都筑区在田南にある、区内で最も歴史のある商店街です。最寄り駅からは徒歩約20分と少し距離がありますが、緑豊かな歩行者専用道路沿いにあり、四季折々の花が咲き誇る地域に愛されている場所です。

シングル世帯、65歳以上の単身世帯の方や、テラス前のごみ拾いなどお手伝いしてくれた方も無料で食事を楽しめます。みんなで食べるおいしいをぜひ実感してください」。

屋台食堂は屋外ですが、暑くても寒くても、子どもから高齢者まで沢山の人が集まっています。



完成イベントでのステージ

ダンサーで「夢かなえ隊」を結成し、披露イベントも行いました。このように、定期的に活用することで、「テラスとステージで、こんなことができるんだ」と知られるようになりました。

パリエンヌの店主児玉さんは「テラスがきれいになった当初は、使っているのかななんてみんな遠慮して

たんですが、今は、犬の散歩にきた人が休憩していたり、放課後の子どもたちが集まってゲームをしていたり、高齢者がおしゃべりしていたりと地域に愛される場になっていきます。また、コンセントが付いているので、商店街のお祭りの時にも役立つと思います。これからも、この場をきっかけに、色々な人のつながりが自然に生まれると思います。」と話しています。

また、ステージでは、中学生や子育て世代がダンスや歌を発表を行うなど、誰もが挑戦し発表できる場として折々に利用されています。えだきんのゆるキャラ（えだきんぎょ）とキッズ

上野さんは「まち普請は本当に大変でした。やめてしまおうと思ったことも何度もありました。でも地域の人に愛されているこの場を守り、綺麗にしたいという一心で持ちこたえまし

た。」と振り返ります。  
みんなの思いが詰まったテラスとステージは、地域の人たちが協力して掃除や運営を続けており、新たな核として、つながりを生み出す場になっています。



解体した木材を使って椅子を製作



古くなったシャッターをイベント仕立てで楽しくお掃除



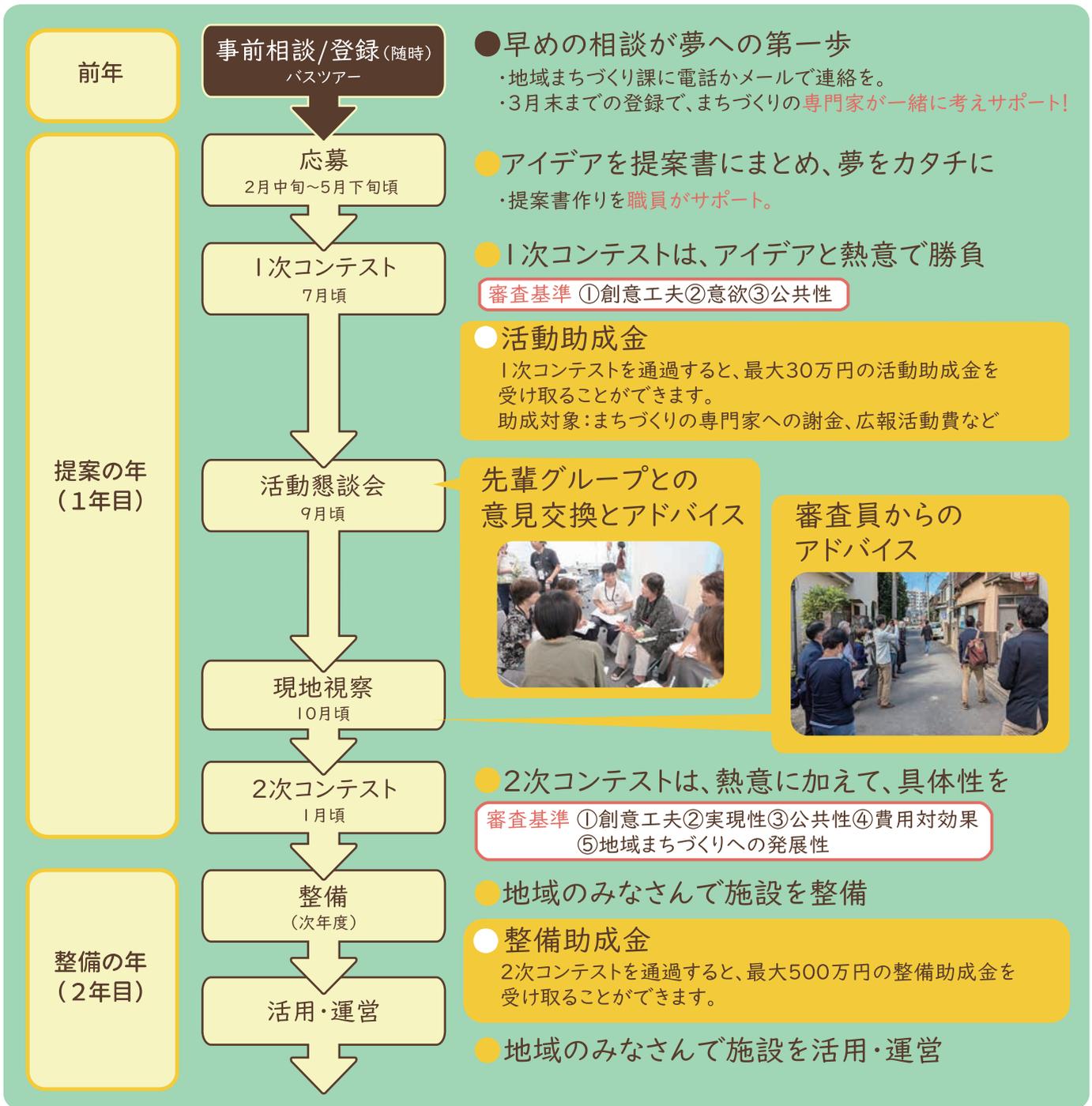
整備主体…えだきん×夢叶きやらばん  
整備場所…都筑区在田南5丁目7番3号  
整備内容…ウッドデッキ、テーブル・椅子、ステージ等  
竣工時期…令和7年1月

リアルとバーチャルで夢を応援  
えだきんメタワールド（都筑区）



にぎわう屋台食堂

# 整備までのスケジュール



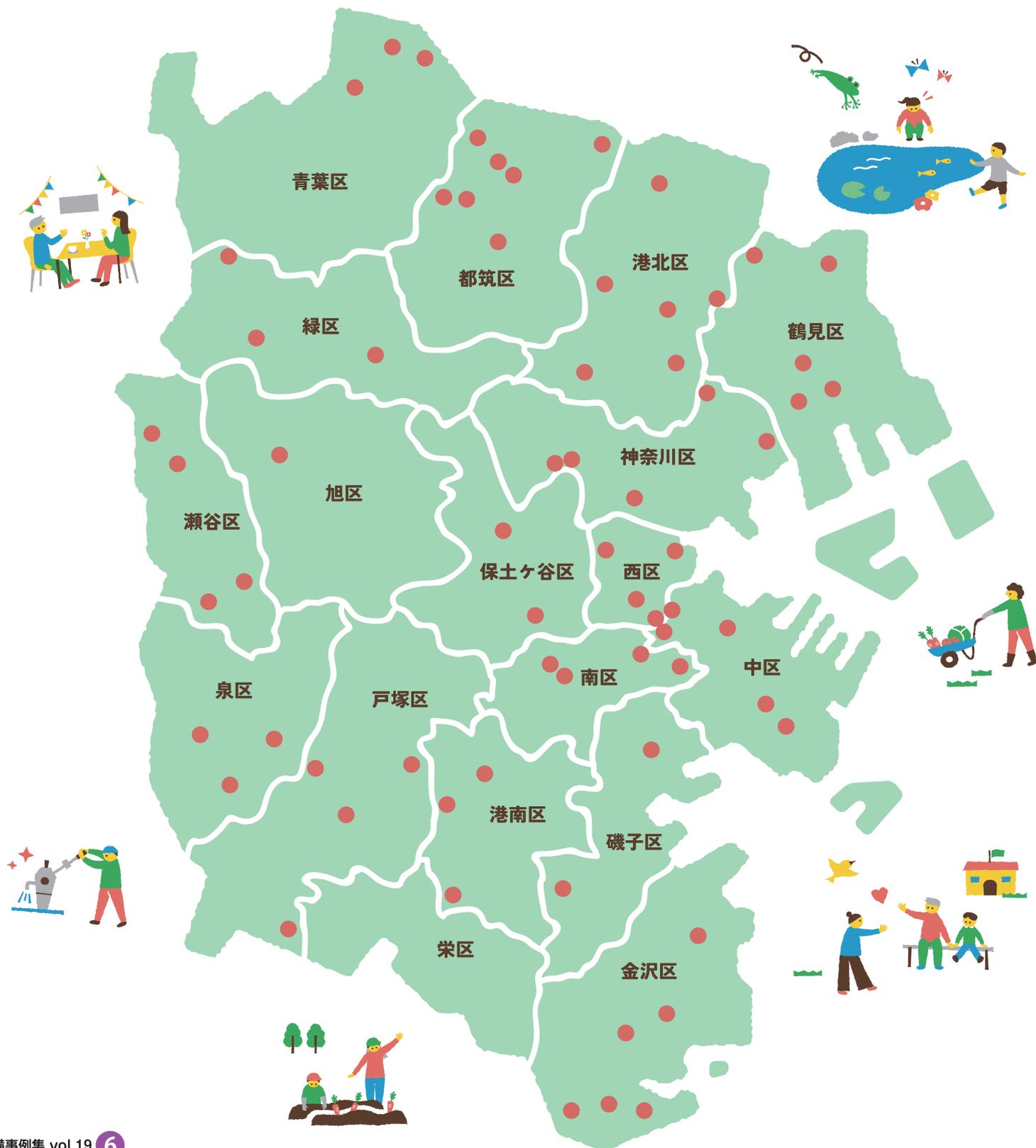
## コンテストの様子



## 整備施設地図 (令和7年3月時点)

平成17年度以降、他都市にはない先進的な取組として事業を推進。

**20**年間で**67**件の市民の皆様の自由なアイデアが実現しています。



## 「ヨコハマ市民まち普請事業」とは

市民の皆さんが主体となっていく、地域の課題解決や魅力向上のための施設整備を伴うまちづくりに対して、支援、助成を行う事業です。

施設整備のアイデア検討やコンテストへのチャレンジ、地域の方々との合意形成、整備への労力提供などの機会を通じて、地域コミュニティが活性化し、地域まちづくりの輪が広がることを目的としています。

### 横浜市地域まちづくり推進委員会

ヨコハマ市民まち普請事業部会委員(令和5年度選考委員) ※所属は令和5年度時点

杉崎 和久(部会長)	法政大学法学部教授(都市計画、まちづくり)
朝比奈 ゆり	東京ボランティア・市民活動センター専門員(市民活動支援、みどり環境)
植松 満美子	松ヶ丘自治会会長(まちづくり、市民活動)
川原 晋	東京都立大学都市環境学部教授(市民事業、観光まちづくり、都市デザイン)
後藤 智香子	東京都市大学環境学部准教授(まちづくり、住環境、こども環境)
肥後 貴美子	市民委員(公募)
松村 正治	NPO 法人よこはま里山研究所理事長(市民協働、環境社会学)
山田 顕子	市民委員(公募)



ヨコハマ市民まち普請

## 整備事例集 vol.19

令和6年度整備事例集

- 発行 令和8年1月  
横浜市都市整備局地域まちづくり課  
〒231-0005 横浜市中区本町6丁目50-10  
TEL 045-671-2679 FAX 045-663-8641
- 編集・デザイン 横浜市住宅供給公社
- デザイン・印刷 株式会社佐藤印刷所



「まち普請事業」についてはホームページをご覧ください。

Webで検索

まち普請

検索



Facebook「ヨコハマ市民まち普請ひろば」もご覧ください。

Webで検索

まち普請ひろば

検索

